

# Asia Indicators

発表日: 2018年9月14日(金)

## 豪州、「完全雇用」が意識される状況が続く(Asia Weekly(9/8~9/14))

～インド、原油高とルピー安にも拘らずインフレ鈍化も、利上げへの意識はくすぶる～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部  
 主席エコノミスト 西濱 徹(TEL:03-5221-4522)

### ○経済指標の振り返り

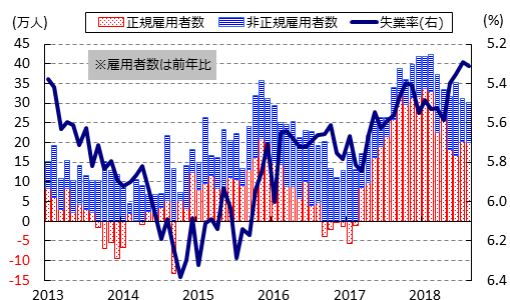
発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
9/8(土)	(中国)8月輸出(前年比)	+9.8%	+10.0%	+12.2%
	8月輸入(前年比)	+20.0%	+17.7%	+27.3%
9/10(月)	(中国)8月消費者物価(前年比)	+2.3%	+2.1%	+2.1%
	8月生産者物価(前年比)	+4.1%	+4.0%	+4.6%
9/11(火)	(フィリピン)7月輸出(前年比)	+0.3%	+1.8%	+2.8%
	7月輸入(前年比)	+31.6%	+26.2%	+24.2%
9/12(水)	(韓国)8月失業率(季調済)	4.2%	3.8%	3.8%
	(シンガポール)7月小売売上高(前年比)	▲2.6%	+0.7%	+2.2%
	(インド)8月消費者物価(前年比)	+3.69%	+3.74%	+4.17%
	7月鉱工業生産(前年比)	+6.6%	+6.5%	+6.9%
9/13(木)	(豪州)8月失業率(季調済)	5.3%	5.3%	5.3%
9/14(金)	(中国)8月小売売上高(前年比)	+9.0%	+8.8%	+8.8%
	8月鉱工業生産(前年比)	+6.1%	+6.1%	+6.0%
	8月固定資産投資(年初来前年比)	+5.3%	+5.6%	+5.5%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

### [豪州]～雇用者拡大ペースに頭打ち感はあるが、足下は完全雇用が意識される力強い展開が続いている～

13日に発表された8月の失業率(季調済)は5.3%となり、前月(5.3%)から2ヶ月連続の横這いで推移している。失業者数は前月比+0.6万人と前月(同▲0.9万人)から4ヶ月ぶりに増加に転じており、正規雇用に対する求職者数は同▲0.7万人と減少に転じる一方、非正規雇用に対する求職者数が同+1.3万人と増加に転じて押し上げられた。ただし、中期的な基調は引き続き減少傾向が続いており、鈍化ペースもわずかに留まるなど堅調に推移している。一方の雇用者数は前月比+4.4万人と前月(同▲0.4万人)から2ヶ月ぶりに拡大に転じており、非正規雇用者数は同+1.0万人拡大している上、正規雇用者数も同+3.4万人と拡大傾向を強めている。中期的な基調としての拡大ペースに頭打ちの兆候はあるが、依然雇用拡大に向けた動きは続いている。なお、労働力人口は前月比+5.0万人と前月(同▲1.3万人)から2ヶ月ぶりに拡大に転じ、中期的な基調も拡大傾向を維持するなど労働市場への参入の動きが続いており、労働参加率は65.7%と前月(65.6%)から+0.1pt上昇している。中期的な基調としての労働参加率も65.6%と過去最高を更新するなど、完全雇用に近い様子もうかがえる。

図1 AU 雇用環境の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

### [インド]～原油高やルピー安の進展にも拘らずインフレは鈍化、準備銀は一息付けるも利上げ路線は不変～

12日に発表された8月の消費者物価は前年同月比+3.69%となり、前月(同+4.17%)から鈍化して準備銀(中銀)が定める中期的なインフレ目標(4%)を下回る水準となった。前月比も+0.43%と前月(同+0.94%)から上昇ペースが鈍化し、生鮮品を中心とする食料品価格の上昇圧力に一服感が出たほか、原油相場の底入れなどに伴い上昇したエネルギー価格も鈍化するなど、生活必需品での物価上昇圧力後退が影響した。なお、当研究所が試算した食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率も伸びが鈍化し、原油相場の底入れやルピー安などに伴うインフレ圧力が懸念される一方、頭打ちの兆しもうかがえる。ただし、直近では原油相場の底堅さとルピー安の進展を受けてガソリン価格が過去最高を更新し、全国的にデモが発生するなどの動きも出ており、今後は副次的影響も含めたインフレ圧力の昂進も懸念される。準備銀は通貨ルピー相場の安定を目指して6月及び8月の定例会合で2回連続の利上げを実施しており、インフレ率の鈍化を受けてその手綱を緩める可能性はあるものの、足下で依然としてルピー安圧力がくすぶる状況を勘案すれば、今後も追加利上げに迫られる可能性はあろう。

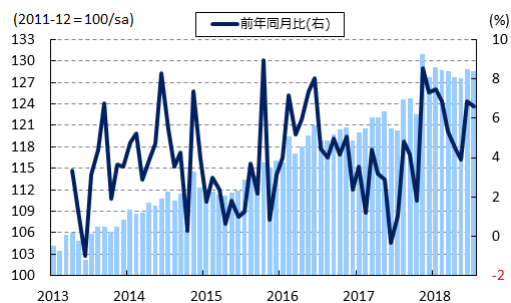
また、同日に発表された7月の鉱工業生産は前年同月比+6.6%となり、前月(同+6.9%)から伸びが鈍化した。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比は2ヶ月ぶりに減少に転じているものの、中期的な基調は拡大傾向を維持するなど底堅い展開が続いている。鉱業部門の生産が鈍化しているほか、製造業や電力関連の生産拡大の動きにも一服感が出るなど、幅広い分野で一進一退の展開となっている。財別では、資本財や中間財の生産に下押し圧力が掛かる一方、消費財の生産は比較的底堅く、なかでも非耐久消費財関連の生産は旺盛に推移しており、家計消費など内需の堅調さを反映した動きもみられる。

図2 IN インフレ率の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

図3 IN 鉱工業生産の推移

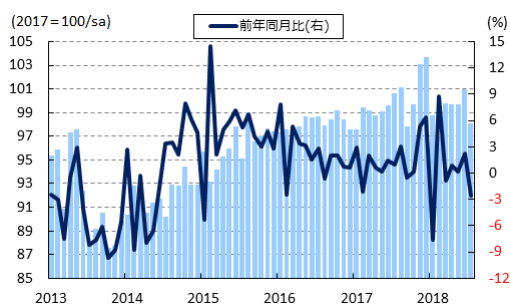


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成, 季調値は当社試算

### [シンガポール]～自動車販売減の一方、高額消費と必需品消費に勢いの差が生じるなど跛行色は鮮明に～

12日に発表された7月の小売売上高は前年同月比▲2.6%となり、前月（同+2.2%）から4ヶ月ぶりに前年を下回る伸びに転じた。前月比も▲2.87%と前月（同+1.30%）から3ヶ月ぶりに減少に転じている上、中期的な基調も減少傾向に転じるなど急速に下押し圧力が掛かっている。同国の小売売上高を巡っては、月ごとの変動が大きい上に小売売上全体の動向を左右する傾向があり、当月は前月比▲19.49%と前月（同+16.48%）の反動もあり大幅減に転じたことが全体の下押し圧力に繋がった。自動車販売はCOE（車両所有権証書）の販売と連動する傾向があり、今年2月に同国政府は登録台数の増加率を引き下げられた上、3ヶ月ごとに見直されるCOEの枚数も減少されたことが販売台数の減少に繋がったとみられる。なお、自動車販売を除いたベースでは前月比+1.00%と前月（同▲1.67%）から2ヶ月ぶりに拡大に転じているものの、中期的な基調は減少傾向が続くなど弱含んでいる。宝飾品や耐久消費財など高額消費は底堅く推移する動きがみられるものの、日用品をはじめ生活必需品に対する需要は弱含む展開が続いており、景気の先行き不透明感がくすぶるなかで跛行色が一段と強まっている可能性が考えられる。

図4 SG 小売売上高の推移

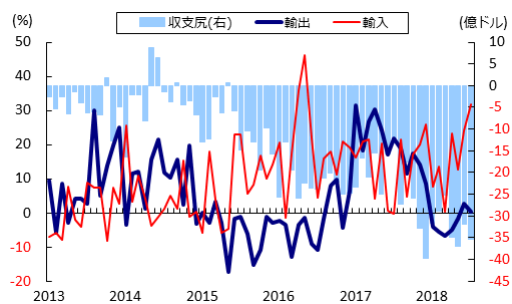


（出所）CEICより第一生命経済研究所作成

### [フィリピン]～輸出に頭打ち感が出ており、資本財や中間財輸入に影響を与える一方、消費財輸入は堅調～

11日に発表された7月の輸出額は前年同月比+0.3%となり、前月（同+2.8%）から伸びが鈍化した。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比は2ヶ月連続で拡大しているものの、中期的な基調は拡大ペースが鈍化するなど頭打ちの兆候が出ている。財別では、自動車部品関連や輸送用機器関連、化学製品関連などに下押し圧力が掛かる動きがみられる一方、主力の輸出財である電子部品関連やバナナをはじめとする農産品関連の輸出の底堅さが全体を下支えしている。国・地域別では、最大の輸出相手である中国向け（含、香港）に頭打ち感が出ている上、韓国及び台湾向けも鈍化する一方、米国や日本向けが堅調なほか、ASEAN域内向けの底堅さも下支えに繋がっている。一方の輸入額は前年同月比+31.6%となり、前月（同+24.2%）から伸びが加速した。前月比は2ヶ月ぶりに拡大に転じたものの、中期的な基調は拡大ペースが鈍化するなど、輸出同様に頭打ち感が出ている。種類別では、家計消費をはじめとする内需の堅調さを反映して消費財関連に底堅い動きが続いている一方、資本財や中間財などで鈍化傾向が強まっている。結果、貿易収支は▲35.46億ドルと前月（▲31.88億ドル）から赤字幅が拡大している。

図5 PH 貿易動向の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

以 上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。